

よく頑張ったね！

この夏は日本が熱帯のようになったにもかかわらず、7・8月に熱中症で病院にかかった人は一人も出なかった。これはすごいことだよ。毎年この時期の熱中症罹患者数を県教委に報告するんだけど「0」という報告を見て県教委の先生は驚いたと思うよ。体育館での集会の時に、十何人も倒れた学校もあったと聞いている。南高のみんなは、各自が水分・塩分補給を心掛け、熱中症対策を怠らなかったということだ。自己管理ができる南高の生徒はすごい！！

さてさて、秋になりましたねえ。心地よい季節です。こんな日和には猫と旅にでも出ませんか？...というわけで、「旅猫リポート」って映画が10月26日から上映されるね。この原作は有川浩って作家さんの小説なんだ。本がなくてはいられない私はすでに読了。図書館発行の「LIBRARY」7月号にも掲載されていたね。

野良猫のナナは、瀕死の自分を助けてくれたサトルと暮らし始めた。それから5年経ち、ある事情からサトルはナナを手離すことに。「僕の猫をもらってくれませんか？」一人と一匹は銀色のワゴンで最後の旅に出る。懐かしい人々や美しい景色に出会ううちに明かされる、サトルの秘密とは。さあ、あなたはもう読みたくなった？それとも、サトルを演じる福士蒼汰さんと俳優猫のナナを映像で見る？

猫が主人公又は登場する本のご紹介

「モノレールねこ」 加納朋子

「猫は心配性」「猫は仕事人」 高橋由太

「深川にゃんにゃん横丁」 宇江佐真理

「猫怪々」 加門七海

「猫手長屋事件簿 ふぬけうようよ」

仲野ワタリ

「猫侍」 新井淳平 ※シリーズ物です

DVD・コミックも出てるよ。主人公の玉之丞がものすごくかわいい♡

「あずかりやさん」 大山淳子

※2巻目も発売

「しづく」 西加奈子

「多摩川のミーコ」 なりゆきわかこ

◎例のあの超有名な作品も忘れないでね。

違いを認め、尊重する

9月下旬に私が所属しているエイズ・サポート千葉というボランティア団体の25周年記念講演会が開催された。特別講演の講師は、NHKのアナウンサー、山田賢治さん。彼はEテレのハートネットTVという番組のキャスターを5年間つとめた。松戸市出身、柏市の高校の卒業生だよ。

番組の中でたくさんの、所謂「社会的弱者」と呼ばれる人たちに会った。そして、たくさんお話を聞いた。マツコ・デラックスさんが出演した時、「あなたはゲイなんですか？性別違和(今は性同一性障害とはもう言わない。障害ではないからね。)なんですか？それとも女装家？とかと直球で聞かれる」と言っていたそう。マツコさんはどう答えたか。「自分を理解しようとしてくれなくていいから、『あ〜、こういう人もいるんだ』って思ってくれればいいの」「人は理解できないものに対して恐怖を感じ、その恐怖は悪となり、敵となり、攻撃対象となる」とマツコさんは語った。だから敢えて理解しようとするのではなく、「わからないならそれでいい」「わかった気になってはいけない」これが人につきあう時に大切なことなのかもしれないなあ実感した。言葉は便利なようで、実は治療薬にもなれば凶器にもなる。ある言葉で一括りにすることは、偏見をもって人をみてしまいがちになる。自分の気持ちや考えを、より正確に伝えるために、最も相応しい言葉を選ぶ努力することは、日本語の良い鍛錬になるかもね。